

つながる

4

都市物語



今こそ繋がるう！

この物語の続きを

つくるのは“あなた”

友好交流都市アンバサダー

構想進行中！

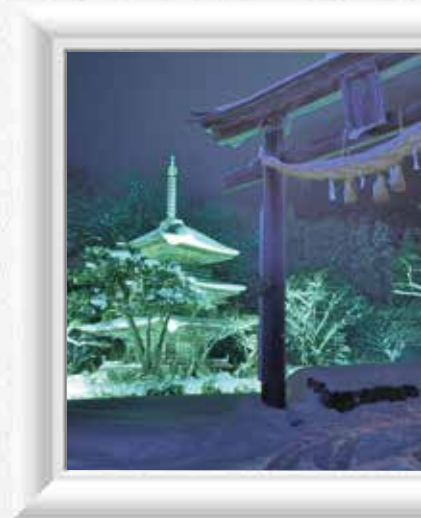


横浜市栄区

長野県栄村

青森県南部町

山形県高畠町



# 1

栄区は栄村、南部町、高島町と交流しています。

中でも長野県栄村は、1992年から「栄」の名を縁として、

小学生同士の相互訪問から始まり、

2013年に友好交流協定を結びました。

青森県南部町とは2015年に友好交流協定を結び、

2017年には山形県高島町との友好交流宣言を発表して、

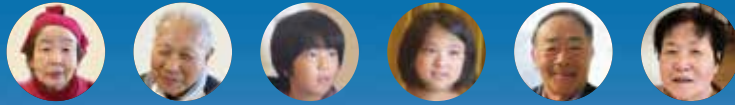
交流を深めています。

2020年、新型コロナウイルス感染症の流行で、

あらゆるイベントが中止され、

人の行き来が制限される事になってしまいました。

遠く離れた友好交流都市の「あの人」どうしているかしら・・・



栄区と友情を育んできた栄村・南部町・高島町の方々に

2020年秋、情報紙編集委員などが

近況をインタビューしました。

私たちにできる交流を発信します。



①  
横浜市栄区

②  
長野県栄村

③  
青森県南部町

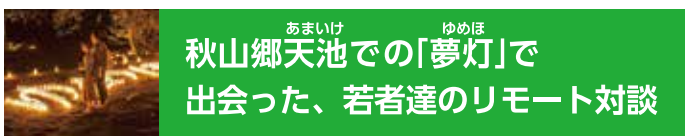
④  
山形県高島町



# 長野県 栄村



夢灯



栄村  
栄村秋山郷観光協会  
白濱彰洋氏



栄村  
2019年夢灯実行委員長  
石川泰正氏



栄区  
ティーンズクリエイション  
坂本祭

**【祭】** 2019年9月に秋山郷の天池の「夢灯」に参加して、とてもきれいで感動しました。おでんも振る舞っていただき、めちゃめちゃ美味しくて、たくさんお替りしちゃいました(笑)。

**【白濱】** お隣津南町で「けつとのほかげ」というキャンドルイベントがあり、それを栄村でもできないかということで始まりました。

**【祭】** 「夢灯」ってとても素敵な名前ですね。

**【白濱】** キャンドルの灯る景色が、桃源郷とか夢見心地を見せてくれるので「夢」、それに灯明の「灯」をあわせて夢灯という名前になりました。「夢」は幻想的もありますね。

**【祭】** 2019年の夢灯は雨が降っていて、毎年参加している方が「夢灯の日は雨が多いんだよね」と言っていたのですが・・・

**【白濱 & 石川】** (笑笑笑)

**【石川】** 僕は栄村に移住して4年目になります。2020年はコロナの影響で、例年のような大きな規模で開催することはできず、1ヶ月遅れの10月31日でした。4回参加して、雨だったのは2019年と2018年の準備中ですね。2016年の「夢灯」は土砂降りだったらしいです(笑)。雨は1年おきくらいかな。2020年は晴れて、満月で紅葉もきれいでした。

**【祭】** いいなあ、参加したかったです・・・

**【白濱】** 「夢灯」では灯りをハートにかたどったところが、撮影スポットで人気ですが、実は天池は空から見るとハート型になっています。ここで続々とカップルが誕生してくれれば嬉しいです。来年は是非、秋山郷の「夢灯」を沢山の方に観に来ていただきたいです。

## リモート対談を終えて 坂本祭

「夢灯」は地域の方と繋がることのできる、素晴らしいイベントだと思います。天池の周辺一帯にきれいなキャンドルが広がって、晴れると星空も見え、とても幻想的な景色です。都会に住んでいると見ることが出来ない景色なので、是非多くの方に参加してほしいです。地元の方が笑顔でうどんやおでんを勧めてくださり、皆さんとても温かいなと感じました。



## できないことを工夫に替えて



栄村芸術文化協会会長  
秋山郷ペンション ひだまりヒュッテ 経営  
相澤博文氏

新型コロナの影響で、2020年の夏は宿のお客さんも、道を行く車もほとんどない状況でした。お陰で畑や田んぼの仕事は、これまでに無いくらいたっぷりできましたけど(笑) イノシシや熊の被害には泣かされています。

秋からは、登山や観光のお客さんは戻っていますが、通りかかって道を尋ねてくる車に、ふとコロナの不安を感じることもあります。様々なイベントが中止になり、村民文化祭ができなかったので、10月に村の有線放送を使って、毎日夜7時から、1日一組芸術文化協会の会員が歌や俳句などを披露しました。芸術や文化を愛する気持ちの強い土地柄です。2015年に栄区の「劇団ぼかぼか」が栄村で公演したときは、子どもたちが「自分たちもやってみたい」と盛んに言っていました。私は栄公会堂のぼかぼかの公演にも3回出演させてもらい、楽しい思い出です。是非また、共演したいですね。



美しい山々に囲まれた栄村は、登山者に人気の信越トレイルのスタート地です。標高2000mを越える苗場山に栄村の子どもたちは必ず登ります。信州大学が調査を続けている希少種の野鳥「仏法僧(ぶつぼうそう)」が、2020年春も栄村では姿が見られました。

# 青森県 南部町



# 3



名久井岳・馬淵川



## おいしい笑顔に会いたくて



パノラマ観光果夢園(かむえん) 園主  
川守田義雄氏

南部町は農業の町で美味しい果物の産地です。夏場は33℃から35℃の猛暑の中、熱中症に気を付けながらの作業でした。6月末から7月はさくらんぼ、8月9月は桃、10月11月はりんごの収穫作業が真っ盛りで12月は宅配作業、1月は剪定作業と休みがありません。「美味しい」という笑顔が見たいなと思って頑張っています。今年はコロナの影響で夏祭り、秋祭りなどの行事もなく寂しいです。観光農園では検温・消毒をしてりんご狩りを実施していますが、観光バスが来ないのでお客さんも少ないです。栄区民まつりには8年連続で毎年参加し、長いお付き合いで交流が続いています。その時の歓迎交流会で、栄村、高島町の方々とも交流出来たのは大変いい経験でした。いたち川周辺には、鯉が泳ぎ、綺麗に整備されているのに感心しました。行き来できるようになったら、南部町にも是非来てください。



## 大きく育てたい、つながる絵



福田学童保育クラブ指導員 下井田先生(左)  
福地学童保育クラブ指導員 中野先生(右)

2020年春は、小学校も1ヶ月休校になりコロナの影響はあったものの、幸い学童保育の子どもたちの参加人数や、ご家庭の様子に大きな変化はありませんでした。「マスク着用」、「ドアや手すりの消毒」など、感染に配慮しながらの活動をしています。二つの学童保育クラブでは、2019年さかえdeつながるアートの皆さんと「つながる絵」

の制作が楽しかったので、「今できること」なら、大きな木や家を描いた台紙を栄区と南部町で送り合って、子どもたちが木の实や花、鳥、笑顔などを描き加えて完成させる共同作品ができれば、楽しくて元気も出るのではと話しています。



## 楽しみながら 故郷への思いを育んで



コミュニティカフェ「南部どき」店長  
根市大樹氏

青森県の新型コロナの感染者数は少なかったのですが、様々なイベントが中止になって、5・6月までは完全に自粛のイメージでした。農作物も出荷先のダメージなどがあったようです。

コミュニティカフェ「南部どき」が地域の拠点として、お客様に会えない、顔を合わせる交流や集まりができないことが何よりつらかったです。そんな中でも、オンラインを含め少しずつイベントを企画したり、つながりも持てるようになってきました。住んでいる地域は違って、人と人との関係を大切にしながら、子どもたちが故郷への愛着を持てるような活動を続けていきたいと思っています。



## 若者同士のつながりを！



双子の姉妹 高校一年生  
根市さくらさん(左)・すみれさん(右)

2019年栄公会堂の劇団ぼかぼかの公演では、それまで経験の無かったお芝居に参加して、劇団のみなさんと共に楽しみました。劇団ぼかぼかがとてもファミリー的で年齢層も厚くて、チームワークの良さが伝わりました。私たちはピアノを習っていたので、劇中歌もとても興味が湧いて、歌を口ずさみながら南部町へ帰宅したことを思い出します。中学校最後の文化祭では、顧問の先生の作品を演じて、お客様に感動していただきました。栄区での経験が生かされたように思います。将来、東京や横浜の大学に進学できたら、劇団に参加したいと思う程、演劇に興味を持ちました。これから栄区とは、是非「若者同士の交流」ができればいいなあと思います。お互いの芸能文化や郷土料理、生活文化の違いなどを伝え合ったら面白いと思います。友達も横浜へ連れて行きたい！



南部町は、バナナとパイナップルとみかん以外の果物であれば何でも穫れるフルーツ王国です。どの季節でも旬の果物が食べられる町です。往来が可能となりましたら、無料の「おためし住宅」を利用し、ぜひ南部町にお越しいただき確かめてみてください！

# 山形県 高畠町



まほろばの緑道



コロナ禍でも、イベントは工夫をもって、どんどんやりたいですね



高畠町役場 総務課長 八巻洋樹氏(左)  
商工観光課主任 鈴木祐介氏(右)

コロナ禍ではありましたが、「観光で健康!」をコンセプトに、2020年6月と9月に参加者を限定してサイクリングイベントを実施したり、町内をウォーキングして綺麗な写真を撮りながら飲食店を巡るイベントを開催しました。その他、疫病退散の花火や観光名所のライトアップなど、少しでも気持ちが元気になる事業を展開しています。最近では、オンラインによる交流会も話題に上がっています。高畠自慢のワインと日本酒と一緒に、山形名物の芋煮を食べるオンライン芋煮会を、栄区の皆さんともできればと考えていますし、今後も知恵を出し工夫をしながら交流を続けていければと思っています。栄区民まつりで花笠音頭を披露したことや、「さかえ歩け歩けの会」の皆さんを高畠の里山コースをご案内したことも楽しい思い出です。また栄区の皆さんと、再会できる日を願っています。



子どもたちが「変わった!」  
大切な経験



公益財団法人 浜田広介記念館 理事長  
金子研司氏

2020年3月末に教職を定年で退き、その後公益財団法人浜田広介記念館と隣町の中学校という、文化施設や学校現場の仕事に引き続き携わっています。どちらも2020年度はコロナ禍の中で、様々な活動

への制約があり、特に記念館ではしばらくの間の休館、学校では対人の直接的なかかわりの制限、禁止等、それぞれの運営や活動で危機的な状況がありました。そして、普段では当たり前とっていたことが、実はとてもありがたいことであることを再確認させられ、このコロナ禍でできなくなったもの、失ったものがとても大切なものであることを痛感させられた年でもありました。

2018年、高畠町文化ホール「まほら」での劇団ぽかぽか公演に高畠町の少年少女合唱団や地元小学校の子ども達が参加しました。ステージで輝いている劇団の皆さんや本物の演劇の凄さに圧倒され、表現することの素晴らしさを体感し、子ども達の意識が確実に変わりました。「やっていいんだ」という感覚が芽生えました。

表現活動が制約されている今だから、なおさらこうした本物に触れる体験、人と人が関わることの必要性を感じています。長年教職に就いていた経験から、今後、栄区との交流を「青少年同士の関係」に広げていくことに大賛成です。是非、協力させていただきます。



浜田広介の童話を通じて  
交流の輪を!



公益財団法人 浜田広介記念館 館長  
島津正道氏

コロナ禍で4月は休館を余儀なくされましたが、まだ来館者は少ないものの少しずつ戻りつつあります。本来なら山形県内の小中学校の修学旅行は県外に行くのですが、最近は、県内から近くにある浜田広介記念館への来訪が増え、改めて童話作家「浜田広介」の世界を知ってもらおう良い機会になっています。

2019年度は記念館が30周年を迎え、「ひろすけ童話セット」(記念館のみ限定販売)を作成し、200名の新入学児童に贈呈しました。2018年の劇団ぽかぽかの高畠町公演はとても感動しました。劇団の子どもたちの頑張りや団員皆様の力が揃って、素晴らしい演劇を観させていただくことができました。その折に栄区内の保育園から折り紙で作った「赤おに」と「青おに」を贈っていただき、それからよい交流ができています。栄区の公立保育園にも「ひろすけ童話セット」を寄贈し、これからの人と人との交流に繋がりたいとも思っています。



高畠町公式 YouTube チャンネルにて、わらじみこし祭り、昭和縁結び商店街、高畠町旅行 PR 動画「あなたらしい旅のカタチ」などを見ることができます。



## 4都市の首長からのメッセージ

### 身近に感じ合える交流をつなげましょう



栄区長 富士田学氏

2020年4月コロナ禍の中、栄区長に就任しました。栄区民まつりも中止を余儀なくされ、心苦しく思っています。幸い栄区は罹患率が低く、皆さんの意識の高さ、対策の実践の賜物と思います。栄区は、多様な顔を持っていて、区民の皆さんは、この町に住み続けたい、だから良くしたい、守りたい気持ちが強いですね。

一つの区が栄村、南部町、高島町と交流しているというのは、他に無いことです。コロナが終息したら、私もぜひ各友好交流都市を訪れたいと思っていますし、ぜひ栄区に来ていただきたいです。

私は美術や音楽などを鑑賞するのが好きです。これまでの民謡や演劇、アートでの交流を、さらに広げて、若者同士の交流もいいですね。身近に感じられる関係で、課題を共有し、人材を育成するなどができるかもしれません。皆さんと相談しながら、一緒に交流を進めて行きたいと思っています。

### 思い出を再び紡ごう



栄村長 宮川幹雄氏

コロナ禍の自粛で、村の観光や学校の休校など影響があり、感染の心配は続きましたが、秋には紅葉の美しさに県の内外から多くの方に訪れていただきました。20数年前に栄区に送った栄村の風景の写真を今回 zoom で見せていただき、子どもたちが栄村と栄区を行き来した頃を思い出しました。栄村の風景は、今も変わっていませんよ。当時は職員として同行し、横浜の港や金沢八景の海に子どもたちが歓声を上げていたこと、栄区のいたち川周辺の景色が目につかびます。栄村はこれまで文化の発信に力を入れて、著名人を招いての講演会など、村を挙げて行ってきました。コロナに負けず、栄区の皆さんとも一緒に、文化や芸能、そして栄村の特産品を通じて交流を進めていきましょう。

### コロナ禍を乗り越え、次に会うときは更なる交流を



南部町長 工藤祐直氏

コロナの影響で、仕事の予定が少ない日が続いたのは就任から21年で初めてでした。行事の中止が相次ぐ中、幸い南部町ではコロナ感染者がいなかったこともあり、秋には満天の星空の下、名川チェリリン村キャンプ場でナイトシアターを開催しました。会場内の3カ所に設置した大型スクリーンで、子どもから大人まで映画を楽しんでいただきました。南部町内の学校教育への影響は比較的少なかったのですが、売り上げの落ち込みが大きい事業者や苦心している方々を支援するために、町独自の補助金をいち早く支給しました。「今、困っている人を、今、支援する」ために、スピード感を大切にしています。コロナが終息したら、自慢の果物や野菜を持って栄区民まつりに参加させていただき、当地域に伝わる伝統芸能の「えんぶり」も披露できることを楽しみにしております。そして、栄区と南部町の若い人同士の様々な交流も進めて行きたいと考えております。

### コロナ禍で町の為に日々奮闘



高島町長 寒河江信氏

高島町で幸いコロナ感染者が少ないのは、環境に恵まれていたからだと思います。「食」と「農」は大きく繋がりを持っていて、このような状況の中で免疫力を高める「食」に、高島町の農産物の供給が大きな役割を果たしています。高島町の葡萄は今年も高い評価を受け、流通も順調でした。少子高齢化が進む中、町づくりには苦慮しています。中学校は6地区を統合し再編成を果たせましたが、小学校は地域によっては児童数の減少が続いています。しかし、半面、移住者が増えている地域では、児童数の増加傾向が見られています。今後の友好交流では、栄区民とも連携を強め、より一層、高島町のPRを広げて行きたいですね。劇団ぽかぽかの公演で、浜田広介の「泣いた赤鬼」をモチーフにした作品には感動しました。青少年同士の交流も進めていけたら良いと思っています。



## 編集委員座談会 (2020 年秋実施)



栄村と交流する  
栄区民の会  
山上東平



栄村と交流する  
栄区民の会  
岩堀まゆみ



栄区民謡連盟  
原田直真紗



栄区民謡連盟  
藤崎幸子



さかえ de つながるアート  
岩上百合子



さかえ歩け歩けの会  
清水正美



MT+Laboratory  
木暮寿子



MT+Laboratory  
柿沼陽子

## 交流で豊かに美味しく

【原田】先日、私の会「民謡直真紗会」の50周年記念の会を行い、たくさんの方に参加いただきました。南部町長もご招待していましたが、コロナの再拡大で、ご出席はかないませんでした。参加者の皆さんへ感謝の気持ちで長年お付き合いのある南部町のりんごを送る事にしました。

【藤崎】これまでりんごを注文するだけだったのが、生産者としての思いなどお話を聞くことができ、栄区の私たちに親近感を持っていただいていることを改めて知ることができました。

【木暮】今年は台風の被害が無かったので、南部町のりんごや高皇町のぶどう、栄村の米といずれもとてもおいしく豊作だったそうですね。

## 交流で行ってみた、来て体験した

【清水】私は「さかえ歩け歩けの会」で高皇町のウォーキングに続いて、コロナが終息したら、栄村のウォーキングを計画しようと思って、11月中旬に下見に行ってきました。現地の方に案内してもらい、ちょうど雪が降って、紅葉と雪を同時に見ることができました。栄村でもめったに見られない光景だそうです。

【山上】栄村とは「栄」繋がりということで「栄村と交流する栄区民の会」は20年以上のお付き合いです。宮川村長は以前教育長で、小学生が相互に行き来していたころにお会いしていました。栄村は自然も豊かで、暮らしぶりも都会とは違うので、栄区の中学生の体験学習などの場にしてもらえるといいと思います。

【岩堀】2019年に秋山郷の夢灯にお手伝いを兼ねて、栄区から祭君たち若者と参加しました。栄村の高校生とも打ち解けて、若者同士

語り合う姿をみて、大人とは違う交流もあると気づきました。

## 子どもたち、若者たちも交流を

【岩上】南部町の学童保育の様子を聞いて、コロナ禍の子どもたちの過ごし方の違いを知り、お互いを励ましあえることを一緒にしたいなあと思います。

【木暮】南部町の高中生も、若者同士交流できることをしたいと言っていました。「劇団ぼかぼか」は栄区を中心に活動していますが、過去に栄村、高皇町でも公演し、現地の合唱団などに出演してもらいました。南部町の中学生が栄公会堂の公演に参加してくれたこともあり、演劇を通じて一緒にものづくりができました。栄区・栄村・南部町・高皇町の若者たちみんなが集って交流したいと思いました。

【岩堀】若者が一つの演劇作品をそれぞれの地域で稽古して、栄区に集合して上演するなんていうのも面白いかもしれませんね。

【岩上】南部町と栄区の子どもの「つながる絵」も栄村、高皇町ともつながりたいです。子どもたちが交流を通して自分の地域を再発見し、愛着が育つと感じました。

## 交流で知る町づくり

【岩堀】小山台の地域のサロン「赤おにカフェ」には、「泣いた赤鬼」の絵本を置いています。お茶とお菓子を用意して、地域の人に気軽に参加して欲しいと始めました。

【木暮】高皇町の浜田広介記念館には「泣いた赤鬼」の村人を誘う鬼の立て看板がありますよ。

【岩上】「さかえ de つながるアート」は2019年から、栄公会堂地下の区民利用スペース「さんぼみち」でカフェを運営しています。南部町のカフェ「南部どき」のお話を聞いて、コロナ禍でも工夫するヒントをもらいました。

## 新たな交流の可能性

【清水】交流先のホームページや動画サイトなどを調べると面白いイベントなどが見られます。それぞれの地域に伝統芸能やイベントなどがあり、お互いを知ることはいいいと思います。

【山上】栄区民まつりで南部町のりんごやせんべい汁、高皇町のぶどうや牛串、栄村の野菜やお米、きのこ汁などは大きな楽しみです。区内でいつでも手に入る場所があるといいのですが、そうもいかないですね。コロナが終息して、栄区民まつりができるようになったら、栄村、南部町、高皇町のテントの中でお手伝いでもしながら、いろんな話をしたり、人柄に触れたりする経験を、多くの区民ができればいいと思います。



---

企画・制作 栄区友好交流都市情報紙編集委員会

MT+Laboratory

---

**編集委員会委員**

委員長 山上東平（栄村と交流する栄区民の会）

編集委員 岩上百合子（さかえ de つながるアート）

岩堀まゆみ（栄村と交流する栄区民の会）

柿沼陽子（MT+Laboratory）

木暮寿子（MT+Laboratory）

清水正美（さかえ歩け歩けの会）

原田直真紗（栄区民謡連盟）

藤崎幸子（栄区民謡連盟）

---

構成・デザイン 佐藤良仁

---

イラストレーション・CG 本田淳

---

## 編集 後記

### 【情報紙制作にあたって】

栄区の皆さんは、友好交流関係を結んでいる栄村・南部町・高島町に、どのような関心をお持ちでしょうか。

栄区と友好交流協定を結んでいる町村は、始まりが子どもたちの交流事業から、あるいは行政職員交流事業からとの違いはありますが、現在どのように交流が進んでいるのか、またその町・村は「どこ」にあって、「どんな楽しいこと」があるのか皆さんに知っていただこうと今回このような情報紙を作ってみました。

おそらく、栄区の皆さんは「栄区民まつりで物産展のブースを出して、それぞれ特産品を販売している」イメージしかないかも知れません。しかし本来は、区民の皆さんと交流を通じてお互いの町村を知り合う、行き来しあう、情報を交換し合う関係になりたいのです。コロナ禍で交流がままならない現在ですが、願わくはこの情報紙がこれからの交流活性化の一助となれたら幸いです。

編集委員会委員長 山上東平